

地区の環境セミナー

先月、地区の環境セミナーに参加しましたので、本日はその報告させていただきます。

セミナーはSDGsを念頭に、「共生…持ちつ持たれつ」をテーマにして開催されました。

第1部では山田尚弘会員から、木の伐採から植林に至る森林のリサイクルについて講演があり、欧米流に人間が自然を管理すべきと主張されました。

第2部では木下一成会員から講演があり、自然環境について、水資源や動植物や鳥インフルなどの伝染病、魚類などの水産資源等具体的に説明され、人間が自然を管理するのではなく、逆に自然と共生すべきと唱えられました。そして近年、いかなご漁が減った原因を海水が綺麗になり過ぎた所為とする見解や、さんま漁の減少については、中国人の乱獲より気候変動による海水温度の上昇により棲息地が移動したとする見解が示されましたが真実の程は分かりません。

第3部では、「自然への負荷を如何に減らすか」をテーマに、テーブル・ディスカッションがありました。

2022年にロータリー財団の7つめの重点項目として追加された「環境」とは、主にクリーン・エネルギーの促進と自然環境の保全を指している様です。

旧約聖書の創生紀に始まる欧米の「キリスト教の自然観」は、人間は自然を支配すべきとしています。例えば、庭に関して、欧米の庭園は人工的にデザインされたものであり、これに対し日本では、アニミズムやシンクレティズム、輪廻の思想から自然との共生を重視しています。ロータリーの「環境」は、欧米流のキリスト教的自然観よりも、自然との共生を目指している様に思います。

私は、自然に対して支配と共生のどちらが環境保全には良いか、明確な答えを持っていません。ただ、環境について、プロパガンダが悪影響を与えていることを危惧します。例えばエネルギーについても、EVがクリーンなイメージの一方で製造工程でCO2を多量排出しているとか、原子力の排除が化石燃料消費拡大となっていると言われており、どれが真実か分かりません。

従って、環境問題を考えるに当たり、以前、FACTFULNESSのお話をしましたが、FACTを見極めることが極めて重要と感じます。そして、ロータリーの重点項目である環境保全を常に意識する事が、我々と自然とのつながりを深め、快適な共生社会実現の第一歩になると思います。

明治の文豪、徳富蘆花は、名著「自然と人生」を、自ら「自然を主として、人間を客とする」小品と紹介していますが、キリスト者蘆花をして、日本古来の文化である自然との共生の素晴らしさを唱えている様に感じます。